



保護者のみなさまへ

～「令和5年度全国学力・学習状況調査」(4/18実施)の結果について～

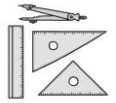
河内長野市立千代田中学校

《基本的な考え方》

本調査については、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」と文部科学省の目的にあります。これらをつまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

今年度も全国学力・学習状況調査の結果と分析を提供いたします。

◇本調査により測定できるのは、学力に限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張っ克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



【学力調査の概要】 国 語

概要

漢字、語句の意味、古典（歴史的仮名遣い・古語）といった知識・技能にかかわる設問については、正答率が高い。また、無回答率も低い。一方、思考・判断・表現にかかわる設問への正答率は、知識・技能にかかわる設問に比べて正答率が低い。特に文章表記を要する問題については、無回答率が高くなる傾向にある。

特に成果が見られた問題例

「インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する」の問いは、特に正答率が高い。提示された文章や記事から情報を正しく読み取ることが、学習においても日常生活においても大切であるという意識づけをしてきた成果といえる。

特に課題が見られた問題例

「インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く」及び、「現代語で書かれた『竹取物語』のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」では、無回答率が特に高い。同じ記述式の設問であっても、自分自身の知識や経験に触れながら考えを書く問題は、無回答率が低かった。そのため、提示された意見・資料に基づいて自分の考えを書く機会を増やし、記述問題への苦手意識を払拭していきたい。

【学力調査の概要】 数 学

概要

基本的な計算問題はできている生徒も多くみられた。

また、無回答率が低いのは問題に最後まで取り組んでいるといえる。

一方で、数と式で、自然数の理解ができていない生徒が全国平均からみて大きく下回った。

空間図形も問題文から何を問われているかを読みとることが苦手なのが見られる。

また、全体的に問題文から与えられている情報がなんなのか、何を聞かれていて何を答えないといけないのかの理解ができていない生徒もいた。

特に成果が見られた問題例

数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる問題や反比例の意味を理解しているかどうかをみる問題、問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる問題では特に成果を見て取れた。

計算問題は回答率から取り組むことができている生徒が多いことが読み取れる。

また、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる問題、事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題は、1次関数の応用を理解できている生徒がたくさん見られた。

特に課題が見られた問題例

自然数の意味を理解しているかどうかをみるや空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみるような知識の問題の正答率の低さが見て取れる。

箱ひげ図等のグラフから視覚的な情報から読み取ることが全体的な課題である。

【学力調査の概要】 英 語

概要

聞くことに関しては、内容が視覚化された問題で特に正答率が高い。視覚により音声の認知が得意な生徒が多いといえる。

また、読むことに関しては、日常的な短い文章の概要をとらえる問題は正答率が高い。話の内容を理解し、場面に応じた適切な返答文を文脈を考えて書いたりすることや、文の正確さが課題となっている。

話すことに関する調査では、小学校から話すことに慣れ親しんでおり、状況に応じて返答できる基礎的な力があるように思われる。

特に成果が見られた問題例

聞くことの問題では場面に応じた状況を把握し、情報を正確に聞き取ることができている。社会的な話題について、短い文章の概要をとらえることができている。

話すことでは「未来表現」や「疑問文の特徴」を理解しているかという趣旨の問題で、簡単なやりとりを聞いて今まで習った表現を使って受け答えができ、成果がみられる。

特に課題が見られた問題例

事実と考えを区別する問題ではグラフを読み取ることが難しい。文の流れを理解して文と文の関係を正確に読み取る問題、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題に課題が見られる。設問や話の内容を正確に理解して、適切に答えられる力を養っていきたい。

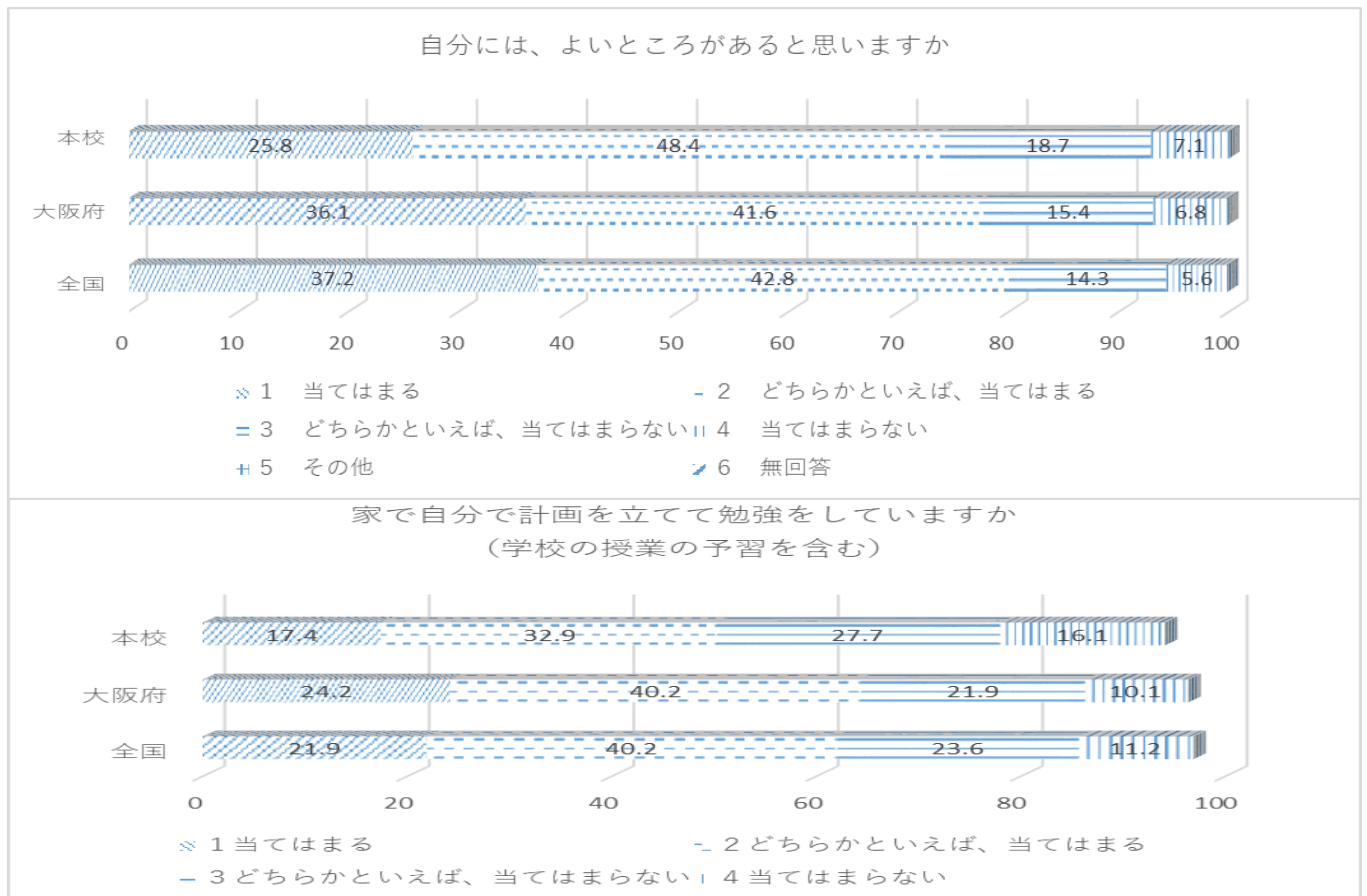
話すことの正答率が低い。やや長めの質問の文を理解して、話す内容をつなげていく力が今後必要である。

学習状況調査の概要 生徒質問紙より

＜過去3ヶ年の経年比較＞

(数値は、各項目の肯定的回答の割合(%)、差は府比を示す)

質問項目	R5	R4	R3	差	大阪府
①自分には、よいところがあると思いますか	74.2 [↑]	64.7	61.9	-3.5	77.7
②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	83.9 [↑]	83.6	-	-2.6	86.5
③将来の夢や目標を持っていますか	66.5 [↑]	64.5	64.9	2.4	64.1
④1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか 【主体的な学び】	65.8 [↑]	64.0	72.5	-11.2	77.0
⑤1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか 【対話的な学び】	50.3 [↓]	58.8	41.2	-14.1	64.4
⑥家で、自分で計画を立てて勉強していますか	55.5 [↑]	43.8	54.9	4.8	50.7
⑦授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。参考書、漫画や雑誌は除く(「30分以上」と答えた生徒)	20.0 [↑]	10.5	10.8	-3.7	23.7



特に成果が見られたアンケート項目例

※数値は肯定的回答の割合

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」 90.3% (府 86.1、全国 86.8)

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」 80.7%

☞肯定的回答のうち、「はい」と回答 (=全肯定) した生徒は 41.3% あり、府 (41.9) や全国 (43.3) と同じ水準。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」 75.5% (府 75.5、全国 77.6) と同じ水準

☞友達の意見にしっかりと耳を傾け、ともに協力する楽しさを知っている生徒が育っています。本校学習指導の主題としている「つながり合い学び合い」の精神が生徒に根づいていることを示しています。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 96.1%

☞肯定的回答 96.1% のうち、「はい」と回答 (=全肯定) した生徒は 75.5% あり、府 (79.3) や全国 (80.3) と同じ水準です。人権道徳教育や日常の様々な活動を通して、生徒の心が豊かに生まれ人権感覚が身についていると言えます。

○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」
←「全くしない」 14.8% (府 21.5、全国 12.5)

○「家で、自分で計画を立てて勉強している (学校の授業の予習や復習を含む)」 16.1% (府 14.8、全国 15.3)

☞家庭で自分なりに学習する割合がわずかではあるがこれまでより増加している。今後も、与えられた課題や提出物に対しては真面目に取り組み、毎日の授業の予習復習など、自分なりの学習を進めていくことができるよう支援する。

特に課題が見られたアンケート項目例

※数値は肯定的回答の割合

●「自分にはよいところがあると思いますか」 25.8% (府 36.1、全国 37.2)

☞自己肯定感の低さは多方面に波及します。間違いを恐れなくてチャレンジしてみる、相手と異なる意見や考えであっても伝えてみるといった積極的な姿勢を様々な経験を通して育んでいく必要があります。

●「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」 ← 「全く読まない」 60.6% (府 45.3、全国 36.8)。

☞読書は、読解力や思考力に影響を及ぼします。ゲーム、SNS等の普及が一因と考えられます。

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

今年度の学力向上の目標は、【スマホに打ち勝つKG(家庭学習)ノート】本校は、「すべての子どもたちがつながり合い学び合う授業づくり」を学習の主題とし、ユニバーサルデザインの観点からすべての子どもが参加し、「わかる授業づくり」に取り組んでいます。特に、ここ2年は、子どもたちの「学力向上」を学校全体の重点方針とし、主体的・対話的な活動を増やし、基礎基本の徹底と、自ら学び考える力の育成をテーマとしています。授業の構造化、めあての提示、言語活動の充実、ふり返り活動等の授業改善を進めています。

また、子どもたちの学力向上のために、校区の2小学校と連携して、学力向上担当者会を定期開催し、小中合同研修会、研究授業、家庭学習ノート強化週間を行ったりしています。

子どもたちが自分の考えをまとめて表現できるような授業をめざし、①生徒の思考に即して授業展開を考える(主体的)、②思考を交流させ、協働して問題解決する(対話的)、③つけたい力を焦点化する(深い学び)を重点に取り組んでいきます。子どもたち一人ひとりの学力向上・自己肯定感の向上をめざして、さまざまな領域で教育実践を継続してまいります。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

- ① 授業中はしっかりと取り組み、わからない部分があればそのままにせず、先生に質問しましょう。
- ② 家で、学校の授業の予習・復習をしてください。毎日、自分で時間を決めて学習する習慣をつけましょう。特に、その日のうちに、授業内容を復習することが大切です。KGノートを活用しましょう。
- ③ 読書は、すべての学習の基礎となる「考える力」を養います。図書館を積極的に利用し、本を読みましょう。

保護者のみなさまに協力していただきたいこと

学習への意欲は子どもの自尊感情と大きく関係します。他と比較するのではなく、お子さまの努力や成長を認め、大いに褒めてください。そしてさらなる課題を意識させることで学習意欲が高まります。

ゲームや携帯電話・スマートフォン、SNS関連に費やす時間の長さが著しいのは以前からお知らせしている通りです。睡眠時間が充分取れなければ学校生活だけでなく健康面でも不調をきたします。お子さまの生活の様子を把握していただき、場合により適切な対処をお願いします。規則正しい生活習慣が学力向上につながります。また、学校での出来事や地域社会で起こっていることについて、日頃から話し合う時間をとってください。今後とも、ご家庭と学校がともにお子さまを健やかに育てていけますよう、ご協力をお願いいたします。